

# 木崎中だより

5号

令和元年8月27日(火)  
さいたま市立木崎中学校  
048(886)4302

## 充実の2学期を目指して

校長 大谷 慎也

「台風の 新しき空 連れて来し」(秋 千晴 『空』2012年) 猛暑、記録的な豪雨、複数の台風が発生等、季節の変わり目とは言え、天候の変動が激しい日々が続いておりますが、本日第2学期始業式を生徒も職員も元気に笑顔で迎えることができました。この夏の暑さの中、県学校総合体育大会や夏季体育大会、各コンクールや展覧会、さいたま市子ども会議やいじめ防止シンポジウム、ボランティア活動等で、木崎中生が自分自身や仲間との協力により活躍しました。そして、その努力は、新たな目標への礎となり、将来の自分を築くとともに本校の栄光の軌跡となることでしょう。生徒を支えてくださった保護者・地域の皆様に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、9月13日(金)は、今年の「中秋(旧暦の秋である7・8・9月の真ん中の日)」です。地域によって異なりますが、手作りの団子や里芋、早生みかんや栗をお供えして、薄(すすき)を飾り、いわゆる「十五夜」のお月見をする習わしがあります。薄は茎の切り口の鋭さから魔除けを、また、稲穂が実ることを意味しているそうです。観月の風習は、中国から伝わり、奈良時代には宮中でお月見の宴が催されていたとの文献があります。さらには、江戸時代に農民が、月を神としてあがめ、秋の収穫物をお供えし、五穀豊穡(ごこくほうじょう)を感謝する祭りとして行われるようになり、その後各家庭に広まっていったようです。幼少の頃、私の家でもお月見を行っていましたが、今では家族そろって名月を眺めることもなく、懐かしく思います。この時季を迎えると、改めて季節の移り変わりにかかわる自然への畏敬(いけい)、労働への感謝、そして、伝統や風習を継承する人々の美しい心を感じずにはられません。

2学期は、夏から冬へ季節が移り変わるとともに、1年間の中で最も授業日数の多い学期です。また、地域を含め、校内外の行事も多数予定されており、日々の生活を充実させ、一人ひとりの生徒が自分自身を向上させるチャンスのある学期でもあります。「体育祭や合唱コンクールにおいて集団のために協力し、自分の役割を果たす。」「学力を高め、自らの進路について熟慮する。」ときです。そのためには、目の前にある小さな目標であっても全力で取り組み、そして、一日を振り返り、「明日はこうしよう。」と考えながら生活することが大切となります。その積み重ねが、日々の生活の充実や自身の向上につながり、学期末には大きな成果が得られるはずです。同時に、様々な試練を受け、悩み事も生まれるかもしれません。生徒が、仲間や教職員、御家族にいつでも相談できる環境が今まで以上に重要となります。一人ひとりに目をかけ、手をかけ、時間をかけて、教職員一丸となって取り組んでまいりますので、保護者、地域の皆様、改めまして御支援と御協力をお願い申し上げます。